



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立八条中学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■「謎解きイベント」

学校図書館の外・中に、委員生徒が考えた「謎」を掲示し、5問すべて答えられた生徒には、しおりを配布した。学校図書館に普段訪れない生徒も、多く来館した。また、ただ「謎」を解くのではなく、図書を借りることによって最後の「謎」が分かるという仕組みにするなど、学校図書館来館・貸出返却も増加した。

■「PLUS にまつわる本の紹介」

「さっぽろっ子宣言」の中に「プラスのまほう」という合言葉がある。「P=Positive」「L=Love」「U=Unique」「S=Smile」のそれぞれにまつわる図書をピックアップし、紹介・貸出を行った。

学習センターとしての機能

■「図書・新聞・インターネットを使って調べる」

インターネットの便利さを確認しながらも、Wikipedia に誤情報が載っているなど情報に不確かさがあることや、インターネットの出典の書き方を学ぶ取り組みを行った。

「まな bell」を使い、北海道新聞にブックマークからアクセスできることを知り、記事を検索したり加工したりする活動を行った。

図書の出典の書き方や図書室がNDC順に(ジャンルごとに)配架されていることを知り、図書を自由に閲覧する活動を行った。

■「正しい知識を選ぶ・情報発信の注意点」

画像を使ったクイズ等で、情報元の信頼性やSNSなどで発信してはいけない情報について、学習する取り組みを行った。

情報センターとしての機能

■「図書館たんてい団」

学校司書による読み聞かせと学校図書館のおすすめ図書のブックトークを行った。

学校図書館の図書がNDC順(ジャンルごと)に配架されていることを把握する。その後、5つのグループに分かれて、「図書館たんてい団」となって本さがしミッションを行う。学校司書から、ランダムに書かれたお題(タイトル・作者・NDC3ケタ)を与えられ、学校図書館の中を探して、学校司書のところに持っていくという活動を行った。

